

COTO TSLUSHIN

発行 / 滋賀医科大学同窓会湖医会

〒520-2192 大津市瀬田月輪町 滋賀医科大学内
TEL 077-548-2074, FAX 077-548-2094
e-mail:koikai@mx.biwa.ne.jp
http://www.biwa.ne.jp/ koikai

湖都通信 32号

Since 1987, Editor Takehiro Inui,
Co-editor Takashi Kadowaki,
Tetsunobu Yamane
印刷 / 昌栄印刷 2000.3.1



昨年10月に完成したコラボレーションセンター。内装もゴージャスに。
(詳しくはホームページをご覧ください)

湖医会会員の皆様、いかがおすごしでしょうか。暖冬かと思いきや数年ぶりの降雪量だったとか。地球温暖化が叫ばれる昨今、こんなに雪も降るのなら、これはまだ

会員の皆様へ、2000+21+21

会長

渡辺 一良 (2期生)

大丈夫なのかな、などと勝手な解釈をしたくなります。

近年、ルネッサンスに匹敵するといいますが、本学にも数々の変革の波が押し寄せてきております。そして本会にもいくつかの動きがありました。

学外臨床実習のスタート、関東支部の発足、またホームページ(以下HPと略す)の開設などであります。このうち学外実習については多くの湖医会会員の協力があつたものと思います。この新しい試みに関して会員諸兄の皆さまの率直な印象はいかがだったでしょうか。次回からは実習協力病院および指導者に対して本会独自のアンケート調査を行う計画ですが、どうぞいつでも湖医会あてにご意見をお届けください。そしてより良い実習体制がとれるように改良していきたいものです。

滋賀医大同窓会関東支部が正式に発足しました。東海より東、北海道までの地域に住み、あるいは仕事をしている会員のための組織です。これまで有志により地道な活動を続けてこられたのですが、このたび、名簿、支部運営

上の細則などを整備すると共に、横田名誉教授をお呼びして講演をお願いし、支部の発足を宣言しました。これからますます大きな役割を果たして頂けるでしょう。

HPについてはこれを更新し、管理することに大変な労力と時間を要するわけですが、現在のところ、永田副会長をブレインとして、本会の優秀な事務局員が勉強をしながらがんばってくれております。会員の皆さんの情報交換の場として、また湖都通信よりもe-cottageな情報源として活用して頂ければ、幸いです。

1999年度(第13回)総会が昨年10月23日、学内講義室にて、委任状を含む240名の参加により行われた。

(8頁詳細報告)

湖医会ホームページ <http://www.biwa.ne.jp/koikai>

主な記事

会長あいさつ..... 1
滋賀医大フォーラムに参加して...2
関東支部会報告記.....3
開業医.....4
総会報告..... 5

新役員一覧..... 6
留学私話..... 7
「53会」をご存知ですか..... 8
頑張ってま～す..... 9
LITTLE WINDOW.....10

第3回

滋賀医大フォーラムに参加して

愛校心が大学を変える！？

北村将司 (19期生)



[目的]	21世紀に向けての大学のあり方について討議する
[期日]	平成11年12月25日(土)
[場所]	ロイヤルオークホテル
[参加者]	滋賀医科大学教授、助教授、講師、助手、看護部検査部・放射線部・薬剤部の職員、事務職員、医員医員(研修医)、大学院生、学部学生、同窓会会員
[日程]	9:30～9:40 学長挨拶、フォーラム説明 9:40～12:00 独立行政法人化について (組織等・目標、計画等・財務等) [9:40～10:40] 講演、森田 朗教授 (東大総長補佐、 東大大学院法政学政治学研究所・法学部) [10:45～12:00] 討論 13:00～14:30 点検評価について (教育・研究・診療・看護・大学のあり方) 15:00～16:00 滋賀医科大学における教育改革 現状の評価と今後の対策 討論 教官および学生 16:00～18:30 滋賀医大の研究は生き残れるか パネルディスカッション 18:30～20:30 懇親会

今回、はじめてこのフォーラムに参加しましたが、予想をはるかに越えた活発な意見の交換がなされていたのを目の前にして、正直驚きが隠せませんでした。各講座から多くの先生方が参加しており、滋賀医科大学を様々な視点から、より良い大学にしていこうという意欲が感じられ、卒業後にこの機会にめぐまれるより在学中に・・・と少し残念に思ったほどでした。在学生の参加も多少はあったのですが、おそらく、ほとんどの学生はこのフォーラムの存在さえ知らないことを思うと、むしろ、在学生こそ母校の先生方の考えに触れておくべきだと、感じて仕方ありません。

そこで、私は卒業生ではあるものの、まだ学生に対して何ら影響力を持つ立場にありませんので、6年間の学生生活を振り返りながらこのフォーラムをどのように感じたのか、ということと学生と同じような視点に立って書いてみようと思います。

実際、多くの先生方が滋賀医大の現在と未来に対して真剣に取り組んでおられる姿があることを、直接学生に伝えることは非常に重要で、このフォーラムはとても良い機会であると感じました。たとえば、今回のフォーラムでも出た意見で

すが、「滋賀医大はなくなる。」という噂が学生間のみならず、色々な場所でもとしゃやかにささやかれていました。その噂の真偽はともかく(実際、私にはどちらとも判断できませんでしたが)、討論の場では有り得ないと思いましたが、(今回のような場において、多くの先生方が滋賀医大の未来を熱く論じている姿を知れば、母校と共に頑張っていこうという気持ちを持つだろうと、期待させる雰囲気がありました。(全く情報を知らされていない学生が母校以外を卒業後の進路として選択したとしても、私にはある種当然の感もあるのです。)たしかに、このフォーラムが学生と先生方の意見交換の場としてのものではなく、どちらかといえば先生方同士の意見交換の場であり、学生はその意見を必要な時に参考として取りあげる程度の役割しか果たせないかもしれない。だからといって学生の意見が反映されない、と言うわけではなく、参加する意義は充分にあると思えました。

在学中から、与えられた教育を受けるだけでなく、積極的に各講座の先生方と交流をもつことは、その人にとって良い経験となるだけでなく、結果として大学全体の改善にもつながっていくと思いま

す。口で言うのは簡単ですが、交流を持つためには、やはり、多少の労力が必要になります。それでも、後から振り返れば、その労力よりも多くの収穫が得られることを、今年、私は実感しました。学生時代に様々な形で大学関係者と交流を持っていたことにより、今回の機会にも恵まれましたし、なにより卒業後、多くの方に色々な形で、ご援助していただいた事は、感謝してもしつづけません。

今回、フォーラムの具体的な内容に関して、ほとんど触れておりませんが、討論を通して私が感じたことをありのままに書かせていただきました。

最後に私事になるかもしれませんが、最近、母校に対する意識について、耳にする機会が増えました。私が言うのも何ですが、「これからの母校の為に愛校心を持ちましょう。」とまでは言いません。しかし、たとえ、どんな形であるにしても、教養のみならず様々なものを与えてくださった、もしくは、与えようと努力してくださっている母校に対して感謝の気持ちくらいは持っていただきたい。そして、そういう小さな気持ちが増えることで、今回のような滋賀医科大学フォーラムなどが有意義なものになり、大学を変えていくのではないかと思います。

本来の趣旨からは、外れたような最後になりましたが、身勝手な意見を最後まで読んでいただきありがとうございます。私も意思を表明した以上、より良い大学になるよう、微力ながら努力していこうと思えます。

同窓会初の支部誕生

関東支部会報告記

Vol.1

久保田整形外科医院 院長 久保田 亘 (1期生)

湖医会初の「支部」として、昨年秋に関東支部が発足しました。さっそく支部会が開会され、48名の出席者で盛り上がりました。この関東会を皮切りに全国に支部ができ、地域の卒業生の交流の場になればと期待しています。「自分達も」とお考えの方は事務局にご連絡ください。(支部には補助金がです)

木々も色鮮やかに紅葉し秋の深まりを感じさせる昨年11月20日(土)の午後7時より品川プリンスホテルに於いて関東会(湖医会関東支部)を開催致しました。以前は、卒業後大学を離れ関東で医療に従事している者が集まり関東会を開き、先輩と後輩の情報交換を行っていましたが、諸々の理由により最近ではほとんど行われていませんでした。卒業生も多くなり皆が集まれる同窓会を開こうという気運が高まり河崎幹雄先生(8期生)を中心に色々と検討を重ね今回の開催に至りました。



第1回関東支部会

出席者は関東地区周辺を中心に50名程で、まず加藤正二郎先生(2期生)の司会で始まり、代表幹事の久保田亘(1期生)の挨拶後、滋賀医大名誉教授(前第一生理学教授)横田敏勝先生により肩の凝らない、肩こりの話の講演をして頂きました。20年ぶりに拝聴した先生の講演は、日常臨床の場では味わえない生理学者としての説得力のあるお話で、また現在でも教鞭をとっておられるとのこと、「横田節」は未だ健在という印象でした。

懇親会は、古河哲哉先生(1期生)の乾杯で始まり、同窓会長渡辺一良先生に滋賀医大の現状についてお話し頂き、同窓会として初めて支部ができたことに対し最大限の歓迎をして頂きました。次に各学年代表者、さらに教員代表として清水敬介先生(元第二解剖学)西尾恭介先生(元第一生理学)に近況報告をしていただきました。先生方それぞれが各分野で活躍されている状況が何われ、また時間の経つのも忘れ程懐かしい学生時代の思い出話に花



横田名誉教授
愛用のパイプを片手に

が咲き、和気あいあいのうちに河野卓也先生(2期生)の閉会の挨拶で、来年の再会を約束して成功裡のうちに閉会となりました。

次回の関東会は2期生が中心となつて、今年7月頃を予定していただきますので、同窓生を誘い奮って参加して頂きたいと思っております。

尚、今回は開催まで期間が2ヶ月程と短くまた、秋の学会シーズンということで準備が十分ではありませんでしたので、次回はより充実した内容にしたいと考えています。また、同窓会よりいろいろのご協力を戴きまして誠に有り難うございました。厚く御礼申し上げます。



(左より、加藤氏・筆者の久保田氏・河野氏)

甘いか? 辛い? しょっぱいか?!

夫婦で小児科医院開いてみたら

はっとり小児科 院長 服部 政憲 (1期生)

妻の弘美さん(5期生)と



南草津なら...:

南草津駅にほど近いマンションの1階で小児科診療所を開設してまもなく3年を迎えます。卒業後、大病院と関連病院の間を歩き来していましたが、生来の筆無精の私にとり大学は敷居が高く、開業は次第に一つの目標となっていました。

開業前に勤めていた彦根の病院は友人も多く、漠然と開業するなら彦根周辺でと、もくろんでいたのですが、家内(弘美、旧姓桂、5期生)は彦根での開業には消極的でした。そんなところへ南草津で産婦人科、小児科、整形外科の医療ビルを開くから一緒にやりませんか、とお誘いが野村先生(2期生)から知人のDrを通じてあり、家内の少しほっとした表情をみてここで開業しよう、と決心した私でありました。

借金は? 設備は? スタッフは? ここは僕に決めさせて

借金を少なく、設備も必要最小限でスタッフも最初は少人数から始める、1日の患者数は40人位が目標、というのが家内の想い描いた開業でした。同様のアドバイスは先輩の先生方からもいただきましたが、大々的に開業している友人を観てきた私は32坪のビル開業の診療所にも夢を追いかかったのです。かくしてここは家内の意見は無視し、多額の借金と、カロードプラ超音波装置を始めとするやや過剰な設備投資と、5人のスタッフを雇い入れ、開業を迎えました。さあ患者さん、50人でも100人でもきてくださいと...ちなみに開業初日は患者数13名でした。(



スタッフのみなさんと

夫婦だからこそできる?! 個々の診療方針。なにとぞ口論から離婚になりませぬように!

開院後は比較的順調でした。気軽に受診でき、優しく親切な診療所をモッ

トーにスタッフを育てました。患者さんが順調に増えてくるか当初は気がかりでしたが、最近では1日平均70名程度まで増えました。患者さんが増えてくると診療方針の違いとでもいいますが、私と家内の診察のやり方の違いが際だつてきました。彼女は丁寧な患者さんを診察し、両親の訴えや悩みを聞き、納得されるまで説明します。冬季には家内の外来は容易に1~2時間待ちになってしまいますがいつに気にとめる様子はありません。かたや私は患者さんを待たせるのが大嫌い。(開業前はそうでもなかったのに...)自分では丁寧な診察と待ち時間の短縮とを両立させているつもりなのですが、この二つは両立しないのでしょうか? また、家内は点滴、血液検査が大嫌い。(下手くそ? 自分では必要最小限の点滴、検査をしていると自負しているのですが...)こんな訳でつい言っているいいことを言ってしまう...この後はご想像に任せます...

経理は? レセプトは? これがなければ楽なんだけれど...

事務関係、職員関係の諸問題はやはり悩みの種です。医療上のごときは勤務医時代よりある程度のノウハウが身に付いていますが、開業しますと医療以外のこともさけて通れなくなり。開業医で奥

様が経理・レセプトを担当されているところは多く、うらやましい限りですが、うちには家内に診療のこと以外は僕が死ぬまではやらなくてもいいよ、と言っています。経理は特に問題がなければスタッフにやってもいいです。レセプトも一部の作業を除けば全部スタッフがやってくれるようになり。雇用問題は私自身の担当ですが、今は楽しいスタッフに恵まれ満足しています。家内は私の診療所に大学から派遣していただいた勤務医の先生ということ。

来るべき小児科戦国時代、二人の特色を生かして乗り切っていけたら...

草津市内は現在ちょっとした小児科過剰地帯です。小児科の医師が常勤する医療機関は12カ所くらいあり、草津駅前では小児科診療所が林立しています。少子化で小児科の診療所は特色がなければ生き残っていけない時代がすぐそこまできているようです。今まで家内の悪口も書いてきましたが、夫婦で同じ患者さんを少し角度を変えて一緒に診ていけることはすばらしいことだと思います。私は専門領域として小児循環器疾患を、家内は乳幼児健診、障害児健診に従事してきました。いずれも保険点数の割には手間のかかる外来で、こんな外来は一般病院では人件費ばかりかかり敬遠されますが、診療所で夫婦で行う分にはそんなことは度外視できます。混雑時には、二人で診察すれば診療の質を落とさずに患者さんの待ち時間の短縮をはかることもできます。お互いの専門分野に関しては私たちのスクラムは強固です。他の診療所にはなかなかまねのできない特色としてこれからも大切に育てていきたいと思えます。

1999年度(第13回)同窓会総会議事録

1998年度事業報告(1998.9.1 ~ 1999.8.31)

1. 湖都通信を3回発行
2. 勢多だよりの購入発送
3. 滋賀医学国際協力会に参画 475,000円
4. 卒業式と入学式に参列
5. 新入生オリエンテーションに出席
6. 新入生歓迎委員会へ10万円寄付
7. 関連病院長会議に出席
8. 若鮎祭へ20万円寄付
9. 名簿発行の準備
10. 「大学フォーラム」に参加
11. 学生とのフリートーク
12. 8期生同期会
13. 特別な理由による就学困難な準会員を補助する事業
14. 大学幹部との交流
15. 生涯教育講座開講の準備
16. 卒業生祝賀会10万円寄付
17. ホームページ開設
18. その他

1999年度事業計画(1999.9.1 ~ 2000.8.31)

1. 湖都通信の発行
2. 勢多だよりの購入発送
3. 「平成11年度会員名簿」の発行
4. 滋賀医学国際協力会に参画
5. 卒業式と入学式に参列
6. 新入生オリエンテーション
7. 新入生歓迎委員会へ寄付
8. 湖医会カードの拡充
9. 関連病院長会議に出席
10. 若鮎祭へ寄付
11. 学生とのフリートーク
12. 名簿情報の管理
13. 学外卒業生向けの図書館利用案内
14. 9期生同期会
15. 特別な理由による就学困難な準会員を補助する事業
16. 大学幹部との交流
17. 生涯学習講座の開講
18. 「大学フォーラム」に参加
19. 支部会発足の協力・・・予算20万円を計上
20. その他

役員改選・・・6頁に新役員掲載

各担当委員長からの報告

1. **名簿担当**
 - 1) 平成11年度会員名簿発行の準備
 - ・ B5版、3600部、11月末発行予定
 - ・ 予算 印刷費250万円、発送費80万円、合計330万円
 - ・ 過去3年間の会費納入者におのみ送る・・・約950名
2. **OA化担当**
 - 1) 下記を購入した
 - ・ スキャナ(EPSON、¥49,770)
 - ・ メモリ増設(¥50,610)
 - ・ ファイルメーカープロ(¥30,870)
 - 2) ホームページを開設した
 - 3) 湖都通信を事務局で編集できるようになり、経費が削減できた
3. **湖都通信担当**
 - 1) 執筆の協力が得られやすくなってきた
 - 2) 第三種郵便による発送を郵便局に確認した。条件として
 1. 年4回以上の発行・部数1回500部以上
 2. 記事内容についての条件多々有
 3. 申請時に、10万円(認可が下りない場合半額返金)があり、満たすことができず今まで通りの発送方法で行う

支部について

会員より関東支部会を発足したいとの申し出があり、協力することになった

- 1) 支部組織補助金として20万円の予算を計上する
 - 内訳(1)支部会開催案内等郵送費に10万円
 - (2)その他(同窓会役員出席補助)に10万円
- 2) 支部の名簿、決算書を提出してもらう
- 3) 湖都通信の原稿協力をしてもらう

その他

湖医会創立20周年を迎えるので事業を考える。案としては

- 1) 会誌発行
- 2) 湖医会賞の制定

1998年度決算報告書

<収入の部>		<支出の部>	
前期繰越	4,433,348	事務費	268,344
(滋賀銀行	2,677,868	会議費	124,205
(郵便局	1,755,480	記念品	188,548
新入会員入会金	525,000	交際費	25,420
本年度会費(含、新入会員)	7,710,618	名簿	51,925
広告料	708,690	備品	274,555
利息	2,565	定期刊行物	1,560,195
カード提携手数料	107,167	通信費	285,067
雑益	23,080	寄付	400,000
		人件費	3,404,735
		退官教授祝賀費	30,000
		会員慶弔費	31,370
		カード入会補助金	5,196
		同窓会館設立準備金	500,000
		記念事業等積立金	500,000
		名簿発行準備金	500,000
		雑費	143,833
		10年同期会	23,080
		次期繰越	5,193,995
	13,510,468		13,510,468

1999年度予算

<収入の部>		<支出の部>	
前期繰越	5,193,995	事務費	300,000
(滋賀銀行	3,076,657	会議費	100,000
(郵便局	2,117,338)	記念品	190,000
新入会員入会金	471,000	渉外費	50,000
本年度会費(含、新入会員)	5,688,000	名簿	4,000,000
広告料	4,070,000	備品	300,000
カード提携手数料	100,000	定期刊行物	1,800,000
		通信費	250,000
		寄付	400,000
		人件費	3,400,000
		退官教授祝賀費	40,000
		会員慶弔費	30,000
		カード入会補助金	20,000
		10年同期会補助金	100,000
		記念事業等積立金	500,000
		同窓会館設立準備金	500,000
		雑費	200,000
		調査費(保育園等)	300,000
		予備費	1,000,000
		支部組織補助金	200,000
		次期繰越	1,842,995
	15,522,995		15,522,995



留学のこと / 開業のこと / 診療のこと / 研究のこと / 人の出会い / 母校について e.t.c.
 字数は1600字程度です。お問合せは事務局まで。
 事務局 : tel 077-548-2074, fax 077-548-2094, e-mail koikai@mx.biwa.ne.jp

Surprising America!

滋賀医大小児科助手 多賀 崇 (6期生)

早いものでロサンゼルス小児病院血液腫瘍部門にresearch fellowとしてきて1年が過ぎました。ほとんど滋賀県から出て生活したことのない私には、この1年の生活は何もかもが新鮮かつ驚きの連続でした。その中から、特に印象的なことを書こうと思います。ただ、皆さんよくご存知のロスですので、部分的に割愛させていただきます。

職場の病院はロサンゼルス市の北東部にあり、隣の研究室の窓からはあの有名なHOLLYWOODサインを見ることができます。ロスは人種のサラダボウルといわれるだけあって、私の周りのfellowも中国(大変多い)、東南アジア、ヨーロッパ、ロシアなど、実に様々な国から来ています。アメリカで生まれ育った人はほとんどいません。女性のfellowが多い事にも驚きました。おそらく男性より多いでしょう。既婚子持ちで30歳以降であろうと思われる女性がたくさん働いています。この国は、女性が働くためのサポートシステムが、日本にくらべてはるかに充実していることが理由のひとつに挙げられると思いますが、彼女たちの仕事内容や仕事に対する姿勢、meetingなどでの発言内容などは、男性と対等です。また、Lectureや臨床のカンファレンスなどがほぼ毎日のようにありますが、discussionは常に真剣で、

曖昧さを容認せず、相手がだれであろうと質問、あるいは意見するのが当たり前です。ここでは男女の違い、立場の上下には関係なく、相手を受け入れる雰囲気があります。アメリカでは、最先端の研究が数多くなされていますが、その理由のひとつはこのように積極的な姿勢を誰もがもって

るからだと思っています。

私の研究室はボスのDr. Laugと私ともう一人M.D.がいるだけの大変小さいLabです。研究内容は、インテグリン(接着因子の一つ)アンタゴニストを使ってヒト脳腫瘍の発育抑制を行っています。今した実験の結果をみて、次に何をするか考えるというパターンの繰り返しで、1週間以上先の実験計画があったためしはありません。ボスはボスなりに何か考えているようですが、なかなか口に出して言ってくれず「こういうことをしたらどうかと思うのですが?」と言うと、やっとsuggestionがもらえるという感じです。常に、我々Fellowに考える習慣と機会を与え、能力を測るとともに新鮮なアイデアを探っているように思います。

さて、話は突然変わりますが、こちらでは日本車が大変多く走っています。故障しないので人気があるようですが、日本ではまず走っていないくらい(20年以上前の車もある)古い日本車が多くみられます。10年、10万マイル(約16万キロメートル)は当たり前です。それと同じようにLabの器械類も新しいものはあまりなく、ぼろぼろのをなんども修理して使っています。修理したら、走るあるいは使える、だから新しいのを買わない、というのが理由のようです。

このように想像していた以上に皆、地味によく働いています。それでいて毎日夕方5時には帰宅し、それぞれ余暇を楽しんだり、家事をしたりするのは、日本では、夜遅く帰宅し食事して寝だけの毎日だった私も、帰宅後は、買い物、食事の用意、こどもの宿題の手伝いなどをやっています。毎日くたくたですが、おかげで家のことや子供の生活にたくさん触れることができました。全部は無理にしても、日本に帰ってもこの良い習慣?はできるだけ続けたいと思っています。

これまで、仕事も家庭もそれなりに精一杯やってきたつもりですが、異国の地で多くの国の人や文化に触れ、自分だけでなく日本や日本人についてまた考えを新たにさせられています。



ごさん 「53会」をご存知ですか？

とみなり整形外科 院長 富成伸育（4期生）

皆さん、こんにちは。4期生の富成です。
我々の学年には「53会」という集まりがありますが、ご存知ですか？

これは、我々の学年ですでに開業した者たちが集まって作った会で、年1回集まって勉強会を行なうといった主旨のもとに始められたのですが、まあ実際はみんなが集まればほとんど同窓会になってしまいます。

第1回は、滋賀の林英治さんの幹事で大津の「臨湖庵」にて開催されました。第2回は岩崎淳君・田野辺君の幹事で焼津にて、そして第3回は柴田君の幹事で名古屋にて開催されました。去年は私の幹事で第4回の「53会」を名古屋で開催しましたので、その内容を皆さんにご報告しておきます。

平成11年6月12日の土曜日、名古屋駅前のホテルキャスルプラザに集合したのは総勢15名でした。

関東から4名の参加者がありましたが、すべて整形外科の開業医です。考えてみれば我々の学年は17名が整形外科に進んだのです。

東京の井上君は学生時代ボート部で私と同じクルーでした。今は眼科医の奥さんとクルーを組んで開業しています。横浜の池田君。久し振りに会った彼は学生時代とまったく変わらぬ明るさでした。仕事はとても忙しいそうです。同じく横浜の柴田君。彼の軽いノリも相変わらずでした。横浜の木下君は立派なヒゲをたくわえており、かなり様変わりしていました。なんでも現在bikeに夢中で、大きなBMWに乗って東名をぶっ飛ばしてきたそうです。

地元中部ブロックからは残念ながら私一人。私も学生時代とは大きく様変わりした一人です（つまり太った）。

関西方面からは8名が参加。岩崎淳君は京都の中心東山三条で整形外科を開業しています。田野辺君は第2外科出身で、宇治で外科内科医院をやっています。杉山さんは小児科医ですが、いまは甲西町で診療所を開いています。大津で内科クリニックを開いている林さん。ちな



みに杉山さんと林さんは我々よりも10歳以上年上なので学生時代から「さん」付けでした。ぎりぎりになって参加が決まった皮膚科の廣田君。彼は彦根で開業しています。学生時代は野球部で活躍した（骨折もした）松川君は守山で小児科を開いています。山田さんは、彼も年齢が上だったので昔から「さん」付けだったのですが、今は坂本で内科医院を開いています。そして今回、まだ開業していない整形外科の石澤君が特別参加となりました。これは同窓会名簿を湖医会から拝借した際、石澤君にお世話になったため私が誘ったのです。

四国からは宇和島で眼科を開業する阿部君が参加。うわさではヘリコプターでの登場かと言われていましたが、新幹線で来たようです。そして最後に遅れて到着したのは、広島岩崎裕光君。こわもての風貌相変わらず。美人の奥さんはお元気とのことでした。

さてこの夜、15名はホテルの日本料理店「佐久良」に集合し、「53会」の開始となったのですが、勉強会はそこそこにさっそく懇親会に突入。飲みや歌えの大騒ぎという年でもないのですが、仕事の話、遊びの話、あるいは家族の事などを語り合い、大いに盛り上がりました。それにしても気兼ねなく酒を飲み話し合える同級生というのは良いものです。料理もお酒も倍うまかったゾ。またたく間に時は過ぎ、「53会」は終了。2次会は、あらかじめ用意してあった近くのパブに場所をかえて行ないました。そこでもまた開業の苦労話などが話題に上り、特に交通事故の保険取り扱いの解釈についてみんなケンケンガクガク大いに盛り上がりました。

深夜になり会はお開きとなりましたが、一部の飲み足りない者たちは、名古屋の歓楽街「錦三」へ繰り出したようでした。私はホテルに帰って池田君の部屋に乱入。岩崎裕光君や石澤君その他数名（よく覚えていない）らと、夜が明けるまで飲み明かしました。

翌日、名古屋名物みそ煮込みうどんをどうしても食べたいという井上君のご要望に応じ、栄にある老舗の山本屋本店にご案内しました。お味はいかがだったでしょうか。

さて今年の「53会」ですが、滋賀の杉山さん（甲西町岩根診療所）が代表幹事となりましたので、6月頃に関西方面おそらくは京都で開催されると思います。

開業者名簿が不完全で連絡が不行き届きのため、すでに開業されているのにまだ一度も案内が届いていない方がおられるかと思っています。そのような方でもしこの会に興味がありましたらぜひご一報下さい。また、これから開業しようと考えている方や単にいっしょに飲みたい方。歓迎しますので、参加希望者はご連絡下さい。

<連絡先>

平成12年度幹事

杉山俊明 甲西町岩根診療所

Tel: 0748-72-0039

53会名簿管理者

富成伸育 とみなり整形外科

Tel: 0584-53-4118

e-mail drtomi@cc.rim.or.jp

頑張ってまあ～す

昨年卒業して勤務についた看護学科の2期生
その奮闘振りをご紹介します

おにぎりのにおい

私の勤めている病院は、恵那山や御岳山のきれいに見える少し高い所にあります。車で30分くらいかけて通っています。よかったことと言えば、通勤途中、山々の四季の風景を楽しむこと、細い山道の運転がうまくなったこと、くらいでしょうか。

学生の時は、実際に医療行為をするだけでなく、看護職と医療従事者というのが結びついていなかったのですが、実際に働く様になり、医療行為をしたり現場をみることで看護職と医療従事者が初めて結びつきました。それから、看護職は専門職であるということ。これもまた、働く様になって初めてわかったことです。学生の時先生に散々言われてましたがよくわかりませんでした。知識と技術を必要としていること、その使い方を知っていること、病気を持った人たちと関わっていくというこ

と……。「私たちは気のいいねえちゃんじゃないんだから」という先生の言葉をしみじみとかみしめる毎日です。

私の勤めている病院は三交代制をとっていて、日勤～深夜の時は私は病院に泊まります。そういう日は、昼の弁当の他にその日の夕食も持っていきます。夕食はいつも、母が作ってくれるおにぎり。のりのにおいのする朝の車の中は、今日もがんばるぞと、気合いを入れる場所でもあり、きっと大丈夫、と肩の力を抜く場所でもあります。

中津川市民病院内科病棟

松岡弘子



こんにちは！保健婦です

びわ町保健センター
岸塚まき絵

ひよんな事から原稿依頼を受け、分不相応ながら筆をとりました。せっかくの機会ですので、理解されにくい保健婦の仕事をご紹介しますと思います。

働いているのはこんなところですよ

私の勤めているびわ町は人口7600人の小さな町です。美しい奥びわ湖に面し、豊かな自然にめぐまれ、のんびりと時間が流れていきます。保健センターには4人の保健婦がおり、きめこまかい保健サービスを住民さんに提供しています。

保健婦といえば 乳幼児健診

保健婦といえば、みなさん想像されるのが乳幼児健診ではないでしょうか。私たちは子どもの発達・成長をみるだけでなく、子どもを取り巻く環境や母子関係を総合的にみてお母さんの育児を応援しています。子どもを育てているお母さんにはいろいろな悩みや不安があり、それらをじっくりと聴いていくことで地域の問題がみえてくることもあります。お母さんが自信を持って子育てができるよう、サポートしています。

保健婦といえば 家庭訪問

保健婦の家庭訪問は、住民さんにとって「ギクリ」とするものらしいです。対象者が子どもにしろ大人にしろ「どこか悪いところがあるのかしら」と緊張して待っていらっやいます。しかし、生活の場である家庭に入り込んで「生活」という側面から健康をアセスメント・ケアできるのが保健婦の強みです。住民さんの緊張を和らげ、同じ目線でいっしょに健康を考えていくことをいつも心がけています。

地域のコーディネーターとして

来年度から始まる介護保険は地域保健の現場に大きな混乱を招いています。要介護老人に対するモニタリング・コーディネーターはケアマネージャーが行うことになり、保健婦の役割がみえにくくなってしまったのではないのでしょうか。しかし、介護保険による線引きは保健の専門性をより明確にするものです。予防的な関わりで、楽しく元気に過ごしていただけるよう支援しています。

このような仕事ですが、おわかりいただけただけでしょうか？私たちは住民の健康を生活という視点から見る専門職です。地域には医師をはじめとして多くの専門職がいらっやいますが、それぞれがそれぞれの視点からみて、専門職も非専門職も協力して、その人を総合的に支援していきたいと思っています。これからまだまだ長い時間がかかりますが、少しずつよい地域づくりをしていけるようがんばります。

助教授紹介

(2000.2.29現在)

高橋雅士 (3期生) 滋賀医大放射線部 助教授



1983年5月 滋賀医科大学放射線科研修医
 1985年4月 滋賀医科大学放射線科助手
 1986年4月 天理よろづ相談所病院放射線科医員
 1993年2月 米国アルバートアインシュタイン医科大学留学
 1994年2月 滋賀医科大学放射線科
 2000年1月 滋賀医大放射線部助教授

この数十年の間にCTの一枚の画像を得るための時間は、9.6秒から0.05秒に短縮しました。そして、現在、附属病院の放射線部には、最新のデジタル画像がまさに横溢している感があります。私の敬愛する某先生は、昨今の放射線医学のこういった状況を「たこやきのRadiology」として危険視しています。我々は、数少ない画像からできるだけ多くの情報を引き出そうとする姿勢を今一度思い出さなければいけない状況にあります。Radiologyはあくまでも臨床の学問です。そして、そこが滋賀医大の放射線医学の原点と思っています。激動する医療界において、放射線医学が貢献できることは何なのかを常に考えながら仕事をしていきたいと思っています。

九嶋亮治 (6期生) 滋賀医大臨床検査医学講座(検査部) 助教授



1960年10月 京都市太秦生まれ
 1986年3月 滋賀医大(水泳部、スキー部)卒業
 1986年6月 滋賀医大附属病院検査部研修医
 1988年6月 滋賀医大病理学第一講座医員
 1989年4月 滋賀医大大学院入学
 1993年4月 滋賀医大病理学第一講座助手
 1995年3月 デュッセルドルフ大学病理学研究所
 1997年4月 滋賀医大病理学第一講座学内講師
 1998年1月 済生会滋賀県病院臨床検査部病理科
 2000年2月 滋賀医大臨床検査医学講座助教授

普通のお医者さんになりたくて滋賀医大に入学しましたが、「病理医」という耳慣れない職業に妙な憧れを抱いてしまい人体病理学の道を進んできました。「病理の先生はおっかないからクシマちょっと標本見てくれや」と言っただけで切片を持参し訪ねてくれる多くの同窓生から色々なことを学び新しい発見もしました。前任地は名神で5分程の距離にある総合病院なのですが、滋賀医大卒業生の就職は少なく、臨床研修指定病院の基礎作りのひとつとして「病理科」を創設するとともに、本学の医局から一人でも多くの医師が勤務できるように働きかけてきました。今後も、会員の先生方が若い病理医を厳しくそして温かく育ててやってほしいと思っています。

住所・勤務先肩書き等に変更がありましたら事務局にご一報ください



加藤智子(看護学科1期生)

滋賀を離れて一年半、関東での生活も「当たり前」になりました。たまに実家に帰ると、浜大津や湖岸の変わり様に驚き、又少し淋しさも感じます。ただ変わらぬのは、琵琶湖。湖岸をサイクリングするのと、友達に会つのを楽しみに、又近々帰省する予定です。

目塚真知子(17期生)

この四月から第1外科へ医局を移り、同時に国立奈良病院にて外科レジデントとして働くことになりました。厳しさを、卒業生のいない中、受け止める毎日ではありますが、いつか滋賀に帰り、滋賀の人々の役に立てる日を夢みて頑張っています。

角野文彦(6期生)

結核についてよく勉強しましょう。また、各種公費負担制度についてもよく頭に入れておきましょう。

武内(3期生)

国の医療政策、経済政策の失政で経営難に陥った病院の小児科の責任者となつたものの、事態は本当に厳しいものがある。どこに税金を使うか、われわれはよくみておく必要がある。

衣笠愛子(18期生)

本当にいろんな人達に助けられ、教えられながら、仕事をしています。医者ってなんやら「うっ」と思う毎日です。

生涯学習講座

訃報

しやくなげ会理事長の
 諏訪三郎氏が、昨年
 12月30日死去されました

同窓会の後援をいただき、昨年の11月5日に地域における高齢者医療問題と介護保険に関する学内講演会を開催いたしました。講師としてお願いしたのは、大津市の坂本で熱心な地域医療活動を展開されている、坂本民主診療所所長の今村浩先生です。今村先生は地域医師会の中でも高齢者医療に関する専門家として御活躍されています。開催にあたり、先生には学生に高齢者の地域医療の現状と課題を示していただくとともに4月から始まる介護保険制度の紹介をお願いいたしました。講演では、スライドを用いて、先生が訪問調査されたデンマークの高齢者の生活や医療・福祉と日本の高齢者の現状を比較し日本の課題を整理され、いまから始める介護保険制度の可能性と問題点を分かりやすく説明していただきました。参加者は25人程度でしたが、看護学科教官、医学科教官、病院職員や学生の参加があり、活発な質疑が交わされ有意義な講演会となりました。ただし、学生の参加が少なかったことから、開催の時間帯や案内方法に工夫が必要と反省いたしました。介護保険問題は、これからの学生教育には不可欠な課題です。医師の生涯教育の課題としても重要と考えられます。保健福祉医学、予防医学の両講座では今後もちつた機会を設定する予定です。最後になりましたが、同窓会より御後援をいただき、ありがとうございます。

本学予防医学助教授 埴田和史

ご協賛
 ありがとうございます

株式会社医事日報 / エーザイ株式会社 / 小野薬品工業株式会社 / 三共株式会社
 株式会社三和科学研究所 / 富山化学工業株式会社 / キッセイ薬品工業株式会社
 ファルマシア・アップジョン株式会社 / 帝人株式会社 / 洛和会音羽病院 (順不同)
 参天製薬株式会社 / 中外製薬株式会社 / ゼネカ薬品株式会社